

森の30年後を考える

散策や 小中学生がワークショップ
狩猟見学

根羽村

根羽村の義務教育
学校根羽学園で13



30年後の理想の森を発表する児童生徒

日、「根羽村の森林体
験&2050年の未
来予想図作成ワー
クショップ」が開かれ
た。参加した5〜8
年生の児童生徒14人

が村内の森林を見て
触れ、30年後の村と
森林について考え
た。

林野庁がかいはつ
マネジメント・コン
サルティング（東京
都）に委託して行う
「令和2年度つたえ
る、感じる、つなが
る、森林×SDGs
プロジェクト」事業
の一環。森林体験教
育や森林研修を通し
てさまざまな形で森
林利用促進を検討す
る。

ワークショップは
全国4つの中学・高
校が参加し同学園が
5校目となる。未来
の森林の姿、自分た
ちの関わり方につい
て考え方をまとめ
て「未来予想図」を作
成。動画を撮影し、
お互いのアイデアを
共有する。

午前中は「散策」
と「狩猟」の2チー
ムに分かれて村内で
森林体験。間近で自
然に触れ、森の魅力
や課題を探った。

午後はワークショ
ップを実施。森林体
験を振り返り、30年
後の森や周りの環境
の理想、そのために
できることをチーム
ごとに話し合っ
て発表した。

散策チームは森で
見つけた木の実やつ
たを使って直径約1
分のリースを作成。
発表では「こみが多
い」「道が整備されて
いない」などの課題
を上げ、「こみ拾いや
植樹をして人間と動
物がともに生きてい
ける森づくりを目指
す」と意気込んだ。



7年生の片桐愛実
さん（12）は「意外
とこみが多くて驚い
た。皆が森をきれい
にして、過ごしやす
い場所になってほし
い」と話し、8年生
の松下莉久さん
（14）は「狩猟を間
近で見、改めて命
の大切さが分かつた。
こみ拾いなどで
撮影した動画は動
画投稿サイト「ユー
チューブ」の農林水
産省公式チャンネル
で公開予定。」

祭りテーマに思い交わす

天龍村

オンラインで 地元住民と都市在住者

2019年に県が
主催した関係人口創
出プログラム「信州
つなぐラボ」で、天
龍村と関わった都市
部在住者でつくる
「天龍つなぐラボ」
はこのほど、同村民
との交流を深めるオ
ンラインイベントを
開いた。向方地区で
行われる「向方潔
め祭り」をテーマ
に、地元住民と都市
部在住者が地方の文
化や暮らしについて